

資産経営・公民連携首長会議 関連情報、記事・コラム（2）

「地域・中心市街地活性化と公共ホール等の建設と運営等」（注1）

株式会社公共ファイナンス研究所  
阿部博人

はじめに

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科が主催し、豊島区、あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）が共催する「公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ」（公共ホールの新しいかたち/可能性）2015 年冬期集中講座が、2016 年 1 月 28 日から 1 月 31 日まで、あうるすぽっとで、開催された。公共ホールに関する有意義な 2014 年からの 3 年連続の講座で、筆者は 2014 年は資料のみの受領であったが、今回は池袋のフィールドワークとシンポジウム「まちと劇場」などを除いて、参加した。参加者は自治体の公共ホール担当者、研究者などの約 30 名。講師は、芸術、ホールの専門家、建築家（槻橋修氏、後述）などで、特に豊島区担当者の事例報告「一池袋副都心に新たなにぎわいエリアを生み出すための挑戦－現庁舎地の活用及び周辺整備について街が変わる 街を変える」、久留米市担当者の「久留米シティプラザ」、この資料に基づく 2 つの事例報告・ケーススタディが、地域と中心市街地の活性化、公共ホール建設、芸術文化、財政を考える上で、大変参考になった。

地域活性化、中心市街地活性化のハードとソフトのあり方、公共ホール・公共施設マネジメントのポイントは次のように挙げられる。

以下は会員専用コーナーで掲載（全文掲載）